

令和4年度第1回生野区区政会議まちの未来部会

1 開催日時

令和4年6月2日（木） 19時00分～20時46分

2 開催場所

生野区役所6階大会議室

3 出席者

（区政会議委員）8名

川本委員、永松委員、宮崎委員、船方委員、岸村委員、古本委員、廣川委員、山納委員

（オブザーバー）

大森委員、森本委員

（生野区役所）7名

筋原生野区長、櫻井副区長、小原企画総務課長、杉本区政推進担当課長、木村地域まちづくり課長、川楠まちづくり推進担当課長、上田企画総務課長代理

4 委員に意見を求めた事項

（1）会議の長等の選出

生野区区政会議まちの未来部会委員名簿

生野区区政会議運営要綱

（2）令和3年度生野区の実施の振り返りについて

資料1 令和3年度の生野区の実施の振り返りについて

：まちの未来部会抜粋分

（3）その他

5 会議内容

○杉本区政推進担当課

それでは、皆様、お待たせいたしました。お時間になりましたので、ただいまから、令和4年度第1回生野区区政会議まちの未来部会を始めさせていただきます。委員の皆様、ご多用のところ、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。私、事務局をしております生野区役所企画総務課、杉本と申します。着座にて失礼いたします。どうぞよろしく申し上げます。

昨年10月に委員改選がありましたが、委員のメンバー、委員の皆様のメンバー構成も新しくなっておりますけれども、コロナ禍の中で全体会は開催できたのですが、

部会としてはこのたび初回ということになっておりますことから、お手元に部会の名簿をお配りしておりますので、またご覧いただければと思います。

なお、本日は他の部会からのオブザーバーといたしまして、こどもの未来部会の大藤委員に参加いただいております。ありがとうございます。また、同じくこどもの未来部会の森本委員が遅れて参加いただける予定となっております。オブザーバーの方につきましては、部会長から求めがあった場合のみ、ご発言いただけることになっておりますので、よろしく願いいたします。

以上によりまして、本日の会議は、委員定数9名に対しまして8名の出席がございます。定数の2分の1以上ということで有効に成立しております。

また、本日の傍聴者はゼロ名になっております。

区政会議に関する本市の規則によりまして、出席された方のお名前、発言内容等が公開されます。事務局において会議録を作成いたしまして、後日、区役所のホームページ等で公開させていただきますので、録音や撮影につきましてご了承のほどお願い申し上げます。

次に、本日の区政会議の趣旨と配付資料について、ご説明を申し上げます。

まず、本日のまちの未来部会では、主に生野区のまちの魅力や地域活性化等について、昨年度の生野区の取組を振り返りまして、その評価や課題について委員の皆様にご意見、ご議論をいただきたいと考えてございます。

本日の会議でいただいたご意見は、後日開催されます全体会の場にて、部会としてご報告をいたしまして、全ての委員の皆様と共有いただくことになってございます。

続きまして、本日の資料についてご説明申し上げます。左肩に当日用とございます。令和4年度第1回生野区区政会議まちの未来部会の次第というのがお手元でございます。そちらに本日の会議資料を記載しております。資料がおそろいでなかったら、お手を挙げていただければお持ちいたします。

まず、先ほどご案内いたしました生野区区政会議まちの未来部会委員名簿がございます。続きまして、生野区区政会議運営要綱でございます。そして資料1といたしまして、こちら事前に送付しておりますが、令和3年度生野区の取組みについて、まちの未来部会抜粋分というA4横のパワーポイントの資料がございます。あと半ピラの紙1枚置いてあるのですが、こちらは、今後委員の皆様宛てに、区役所からの区政会議に係る連絡等についてメールでもやり取りできるようにということで、メールアドレスの登録の案内用紙を置かせていただいております。差し支えない範囲でご登録の協力をいただければ幸いです。

資料は以上となっております。

本日は、委員改選後の初めての部会でございますので、後ほど委員の皆様方にて部会長と副部会長をご選任いただきますけれども、それまでの間はこのまま事務局のほうで進行を務めさせていただきたいと思っております。

それでは、ここで当区の筋原区長よりご挨拶申し上げます。

○筋原区長

皆さん、こんばんは。この4月より生野区長を拝命しております筋原と申します。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

本日は、お仕事やご家庭のご用事でお忙しい中、まちの未来部会にご参集いただきまして、誠にありがとうございます。皆様方には平素より市政、区政の推進に本当に多大なるご尽力を賜りまして、心より厚く御礼申し上げます。

私は4月から生野区長を拝命しておりますけど、それまでは港区と大正区という海沿いのまちの区長を務めてまいりました。4月に御幸森の方へ引っ越してまいりまして、日々この生野区の人情や、また活力を日々実感しながら生活をさせていただいているところでございます。前任の山口区長も提唱しておりました。「全ての人に居場所と持ち場のある街へ」というまちづくりを引き継ぎながら、そして2025年の大阪関西万博に向けまして、暮らしても楽しい、そして遊んでも楽しい、働いても楽しい、生野区まちづくりを盛り上げていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

本日は令和4年度第1回の区政会議まちの未来部会ということで、議題につきましては昨年、令和3年度の生野区の取組の振り返りとなっておりますので、どうぞ皆様方のご忌憚のないご意見を述べていただきまして、これからの区政運営に反映していきたいと思っておりますので、本日はどうぞよろしくお願ひ申し上げます。ありがとうございます。

○杉本区政推進担当課長

それでは、議事に入りたいと思います。お手元の次第の議事1「会議の長等の選出」についてでございます。

ただいまより、お手元にお配りしております生野区区政会議運営要綱の第7条第3項の規定に基づきまして、委員の皆様のご互選により部会長及び副部会長を選出いただきます。選出後は、それぞれ部会長と副部会長のお席に移動いただくことになっております。

それでは、まず、どなたに部会長をお願いするかについてご意見等は、どなたかございませんでしょうか。

○岸村委員

私、東桃谷の地域まちづくり協議会の理事長を務めている岸村ですが、普段同じ立場で、勝山地域でお務めいただいている川本会長、普段から非常に知識経験がある豊かな方でありまして、ぜひ、この機会に推薦をさせていただきたいと思っております。よろしくお願ひします。

○杉本区政推進担当課長

ありがとうございます。川本委員とのお声がございますが、皆様ご異議ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

ありがとうございます。川本委員が部会長に選任いただきました。

それでは、ただいま部会長が選任されましたので、部会長席に移動いただきまして、ここからの議事進行は部会長にお願いしたいと思います。

○川本部会長

ご指名ありがとうございました川本と申します。一応、この部会が皆様方の声、皆様方の意見が区政の一部でも、少しでも生かされて、区政の一部で皆様方の声が通ってい

くというのが、この区政会議の一番大事なところだと私は信じております。そういう意味で皆様方の闊達なご意見をどんどんいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、副部会長に永松さんを指名したいのですが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○川本部会長

それでは、すみませんが。

○永松副部会長

はい。

○川本部会長

それでは、会議の次第に沿いまして議事2「令和3年度生野区の取組みの振り返りについて」区役所から説明をいただきます。

○上田企画総務

生野区役所企画総務課の上田と申します。皆様、こんばんは。着座にてご説明させていただきますと思います。よろしくお願いいたします。

前面のスクリーンをご覧くださいのですけども、皆様にはこれより運営方針で目標に掲げる3つの柱のうち、いざなり豊かな魅力あるまちに関連する令和3年度の主な取組の振り返りにいてご議論いただきたいと思っております。

今回、主な取組の振り返りで抽出された課題についてどう取り組むべきか、どのように取り組んでいけば課題解決に迎えるかなどについて、皆様にご議論いただきたいと思っておりますのでお願いいたします。それでは説明に入らせていただきます。

令和3年度ですけども、昨年引き続き新型コロナウイルスの感染拡大のために、いろいろな行動が制限されることとなってしまいました。ものづくりの伝統を守り、受け継がれるための支援の取組についても同様でして、ものづくり教室やこども工作教室などが中止となってしまいました。そうした中で生野ものづくり企業を紹介する、生野ものづくり百景を活用して、生野みんなの文化祭でパネル展示をするなど、ものづくりのPRに取り組んでまいりました。今後もものづくりの楽しさ大切さを知ってもらいながら、将来を担う若者や優秀な人材の確保、担い手の育成に取り組んでまいりたいと考えております。

続いてですが、空き家の利活用の取組です。事業連携協定企業のスペースマーケットさんと a k i p p a さんとの共催で空き家等の所有者に向け、空き家・空きスペース利活用セミナーを9月にオンラインで開催し、23名の方にご参加いただきました。セミナーの様子についてはY o u T u b e で現在も配信しておりますので、よろしければご覧ください。また、12月には生野区空き家活用プロジェクト運営委員会と共催で、生野空き家シンポジウムを開催しております。城東区蒲生4丁目のまちづくりに携わった和田さん、株式会社大都の山田社長、生野区長をコメンテーターとしてトークセッションが行われ、49名の方にご参加いただいております。

次に、学校の跡地を核としたまちの活性化の取組でございます。昨年3月で閉校となった御幸森小学校跡地の利活用事業者を株式会社R E T O W N さん、共同事業者としてN P O 法人 I K U N O ・多文化ふらっとさんに選定して、現在、「つな

ぐ・まなぶ・たべる・はたらく・つどう・たのしむ・つたえる・まもる」という8つの包括的機能を持つ地域拠点の活用に向けた準備が進められているところがございます。この3月で閉校となりました生野小学校、生野南小学校、林寺小学校におきましては、昨年度にマーケットサウンディングを実施し、活用事業者の公募を現在進めております。今年度中に事業者の選定を行う予定となっております。また同様に、この3月で閉校となりました西生野小学校についても、これから地域の方々と地活用に関して意見交換を行い、事業者公募に向けた取組を進めてまいります。

続いて、持続可能な地域公共交通の推進についてです。AIオンデマンドバス交通、いわゆるオンデマンドバスの社会実験が令和3年の3月30日から生野区の西部エリアで開始されました。去年12月からは区内全域に運行エリアが拡大され、利用者も増えてきておるところでございます。また当初、今年の3月までする予定でしたが、来年の3月末まで1年間社会実験の延長がされることとなっております。当区といたしましても、この社会実験の成功で交通不便地域の解消にもつながるものと考えており、引き続き実施主体者である大阪メトログループと連携しまして、認知度の向上に向け広報等に取り組んでまいります。皆さんもぜひご利用いただければと思うので、よろしくお願いいたします。

最後になりますが、生野の魅力の発掘・浸透の取組でございます。生野区が持続可能なまちになるように、生野区のまちの魅力を効率的に発信するとともに、まちにある様々な資源を魅力の一つとして見だし、それらの魅力をこのプラスのイメージとして内外に浸透させる取組を進めており、広報紙には毎月特集記事を掲載するなどしております。また、ツイッターなども利用していろんな広報活動を進めておりますので、皆様またご覧いただければと思います。よろしくお願いいたします。

魅力のあるまちということで、昨年度、事業連携協定を結びました株式会社大都会さん、GreenSnapさんと共同してスマートフォンを使った、花と緑のフォトコンテストというものを実施しております。コロナ禍で直接会うことが難しい時期でもありましたので、花や緑を通じて交流を図っていただけるような取組としてやってまいりました。

以上が主な取組の紹介となっております。

最後に、各取組ごとの目標の達成状況をまとめたものが前面のスクリーンに出しておりますので、議論の参考としていただければと思います。

簡単ではございますが、以上とさせていただきます。ありがとうございます。

○川本部会長

山納先生、ファシリテーターをよろしくお願いいたします。

○山納委員

山納でございます。ということで、今からファシリテーターということを仰せつかりました。皆さんとお話をしていきたいと思っております。

普通ファシリテーターというのは、割と中立な立場で皆さんの意見を引き出していくことを期待されているのだと思いますが、多分僕自分の意見も言います。皆さん、今から8時20分ぐらいまでしゃべっていいんだと思います。一人、5、6分ぐらいしゃべっていただける時間があるのではないかと思います。

先ほど、上田さんからお話をいただきました昨年度の取組ということで、例えばみんな文化祭の中で、ものづくり百景のパネル展示があったと、ですから、この生野区にあるものづくりの楽しさを伝えていこうということをやりましたよというお話をいただきました。

空き家の利活用ということで、所有者、空き家を持っている人向けのセミナーをやるということであったり、シンポジウムをやる。空いている家をどんどん使っていこうというお話をさせていただきました。

学校跡地活用ということで、御幸森小学校が既にRETOWNさんとNPO法人IKUNO・多文化ふらっとさんによって運営が開始しているというお話、そしてその後、生野、生野南と林寺と言いましたか、3つの学校について今、今年度中に事業者を決めて進めていこうと、さらに閉校になっている学校を活用していこうという話が進んでいるということをお話をいただきました。生野区で9校でしたっけ、小中学校が空いてくる。それをですから、一つ目が御幸森でしたけれども、それ以降どんどん学校の利活用ということを進めていこうというお話をいただきました。

地域公共交通のお話をいただきました。オンデマンドバス、1年前から運行を始めている。これはどういう状態になっているのか、この3月末ではなくて、来年の3月まで1年間延長されたと、これがどう運営されているのかという話あるかと思えます。

最後に、魅力の発掘・浸透ということのお話でした。まちの魅力を発信していく、資源を見いだして伝えていくこと、スマホを使ってフォトコンテストをやるみたいなお話をいただきました。これは生野区のほうで計画を立てて進捗を、管理をしてきたプロジェクトだと思います。

今から、このまちの未来部会のお話をしていこうと思います。まちの未来の話をしていく、皆さんの、一人一人の委員の方々が、今お話いただいたようなテーマの中のどこに強い関心を持っておられるのかですとか、ここにはないのだけれど、こちらのほうがよっぽど気になりますという話ですとか、私はこんなことをやっていますということ、また、ほかの地域でもこんな取組があって興味を持っています。いろんな切り口で、このまちの未来を考えていくことを今からやっていけたらと思っています。

ということで、マイクをどなたかから回ささせていただこうと思っています。区役所の方への質問、これは聞いてみたいということも、今のお話、説明の中であろうかと思っています。一旦、質問を言っていただいてもいいのですが、都度区役所の方が答えるという形ではなくて、ここに集まっていたいただいた方々がどの辺りに関心を持っているのかというのを聞かせていただく時間を回ささせていただければと思っています。よろしいでしょうか。

ということで、どなたかにマイクをまず握っていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○廣川委員

初めまして、廣川と申します。区政会議、楽しくみんなで和気あいあいとできたらいいなと思っています。その中で生野の未来をよりよいものにできると、みんな

で信じて突き進めていければと思います。

自分が興味あるところで言うと、まちの歴史とかを知る中でものづくりなのかなと、中小企業のまちで発展してて、銭湯の文化も生野が先陣を切って広がっていったけど、今は銭湯も廃れていって、ものづくりとして残っているのは鉄工所とかがいっぱい残っているの、そういったところを面白くPRしていくことで、伝統が途絶えるといったところどういうアプローチで、長く歴史を紡いでいけるかっていったところ、自分の活動でいいますと空き家活用しているので、生野区を拠点に面白いまちといったところを発信できる拠点がいっぱい増えていけばいいかなと思っています。

細かく何をというわけでもないのですが、もっと民間のアクションが増えていったらいいのかなと思います。やっぱり区というのは大きな視点で見ているので、まちといったところはまちに住んでいる人たちが一番理解しているし、こうなったらいいなという、そのいいなを引き出してアクションできるまちになれば、もっと面白いまちに変わっていくのかなと思います。

○山納委員

そんなところですか。幾らか聞いていいですか。

鉄工所が残っていると、ものづくりの話があったと思うのですが、これ廣川さんというわけでもなく、皆さんに取りあえず投げかけておこうと思うのですが、まちにあるものづくりを発信する。伝えていくってどういうやり方があるのかなと思っています。先ほどは、コロナのこともあってパネル展示をしたということでしたけれども、工場見学ってあります。実際にその工場を巡ってみる、実際に何かものを作っているのを見せてもらうというやり方もあるでしょうし、最近、大阪の八尾とか、堺ですごく注目されているファクトリズムという動きがあります。それは工場に行くんです。その工場を見てもらって、とにかくこんなものづくりをしていることを広く知ってもらうという、だからフェスティバルみたいになっているのです。ものづくり見学というものが、そんな動きだって実は大阪では起こっているということもある。例えば出てきてもらって一緒に子どもたちともものをつくってもらう、ワークショップみたいなことであるかもしれませんが、このものづくりを発信するというのは、一体どこまでのことが生野区でできるのだろうと考えています。

もしこれに答える何かがあればいいですし、そのまま何か問として投げかけて終わってもいいのですが、いかがですか。

○廣川委員

今、自分の活動になるんですけども、生野の中川西のほうで空き家を再生させて、そこに若い子とお母さんと2人で運営している、カフェを運営しております。名前は「生野長屋大学」というまち中に大学つくったろということで、コンセプトでいうと多世代交流と共に学ぶ教育の場で、こういうアンテナ的な場所をつくったら、生野区だけじゃなくていろんな地域から人が集まって、その人たちと生野といったところを俯瞰して見た中で、面白い部分やったりとかをアプローチしていけたらいいかなと思っている中で、その拠点のところの近くに歴史ある場所が2件ありまして、そこを今後PRしていくに当たって、行政からというのを民間からやろうとし

ていることですが、補助金の枠組みとして、ストーリー性のある動画、動画PR に対しての補助が下りるので一度チャレンジといったところも踏まえて、そのネックの部分になるところでいうと、やっぱり跡継ぎがないであったりとか、古くからやっているのだからちょっとかっこよさがなく、見た流れでいうと、やっぱりアップデートしていかないといけないところと、残すべきところは残して、アップデートしていくところはしていくという、伝統を紡ぐといったところを最優先に置いたときは、みんな県外からの人たちがやったりとかに、面白いまちだよといったPR をしていくべきなのかなと思います。

もっと一拠点、一拠点に関係人口みたいな、生野も区で捉えたときに大阪市内、ほかの大阪市内やほかの区から人をどんどん呼んできた中で、動いている事業者さんと絡めて何かアクションをできれば面白く広がっていくんじゃないかなと思います。

○山納委員

ありがとうございます。空き家の話が出たので、その話も聞いてみたいと思っています。もう既に関わってはるんですね、空き家活用。

○廣川委員

空き家活用はやっています。

○山納委員

この空き家問題はどのような問題なのかという話ですが、これも誰に答えていただくでもなく言うのですが、いっぱい空いていますということが問題なのか、空いてるんだけど使われていないということが問題なのか、使わさへんって抱えているから問題なのか、どのような問題なのかって多分空き家っていろいろあるんだと思います。

聞いてみたいと思っているのは、使おうと思ったら活用できる空き家っていうのはあるものなんですか。御存じであれば、知らなければいいです。

○廣川委員

すみません。度々自分の今の経験上ですけど、歴史ある建物とかで言うと、生野って大きな地主さんが多いのかなと、大きな土地の上に借地の物件で、多くの家が建っている場所がぼんぼんとある中で、自分が面白いなと思ったのは借地のところですけど、相続がかかって3世代目になってきてて、それをつくった人、その次の代から、その3世代目になっていっているタイミング、この今のタイミングってちょっと距離感があるんです。建物と人との、そのところに対して出てくるのが空き家を貸すとなったときに、お金がかかるんでしょっていうまずネック。地域といたるところと、東京やったりとか、関東のほうやったりとか、都心部に出ていっている人が多い、そこら辺は話を取ったわけではないんですけど、多くなっているのかなと、そうなったとき空き家って負の資産になっていくような形なので、そこを解決して空き家を頂いているやったりとか、貸してもらってます自分は。

○山納委員

ありがとうございます。何となく伺った印象でいうと、あります。3世代ぐらいたっています。貸すにしてもお金かかるから難しいよね、自分の中にハードルがあ

る。何なら生野にいなかったりする。なので、次に使いたいという人になかなかバトンを渡せないでいるみたいな状況なんではなかろうか。例えて言うと。

ありがとうございます。いろいろと廣川さんに教えていただきました。こんな感じでいこうと思います。どなたからでも、どんなテーマでも構いませんので続けていただけたら。

お願いいたします。永松さん。

○永松副部長

皆さん、こんばんは。先ほど副部長をご指名いただきました永松です。あらためてよろしくお願いいたします。私は今年3月で閉校になりました生野小学校校下の生野地区運営委員会というところで広報を担当させていただいております。

いろいろ、幾つかあるのですが、特にお話したいなと思っているのが、地域のお話で言わせていただくと、うちの地域、最近この1年、近所に商店街があるんです、生野銀座商店街、本通商店街、寺田町に続く長い商店街があるのですが、もともとシャッターが多かったところに、最近店舗がぽんぽんと入りまして、それもアジア食材のお店だったり、アジア系の料理のお店、フォーのお店だったりとか、正直何料理かなみたいな、よく分からへんなどいうのも多かったですとか、近所のスーパーでも明らかに外国籍の方が急増したというのがありまして、地域としてもなんや、なんやという声が上がっていると、もちろんネガティブな意味ではなくて、すごい増えたよねという感じがあるのですが、そういうのがある中で、もともと生野区、御幸森商店街ですか、今、ものすごいブームになってます。あれと同じ区内でありながら少し離れた地域で、あのにぎやかさは羨ましいなと思いついておりましたので、地域の近所の商店街が少し盛り上がりを見せているところをすごく楽しみに一住民として思っています。

ただ、先ほども言いましたように、地域の声として、なんや、なんやというのがあるので、急にまちの雰囲気が変わるというのは戸惑いを覚える方もいますので、こちらの資料の中にも、経営課題3の中にも外国籍住民の急増、特にベトナムやネパール等というのが挙げられておりますけども、やっぱりそこら辺、区からもうまく既存の住民との橋渡しをしていただくことが、まちの盛り上がりにつながっていくのではないかなとは感じております。特に地域で見かける外国籍の方、若い方が多いのでにぎやかに同じ国の、多分お友達同士で一緒に歩いている姿とかもとても見るようになったので、地域としても仲よくしていけたら、もっと交流の機会が増えたととても楽しいだろうなと思うので、ただやり方が分からへんというのが正直なところです。

なので、何かしら特に生野は多文化、多国籍のまちだと思いますので、ぜひその辺りができたらいいなというのが一つ目です。

○山納委員

それに関していいですか。ありがとうございます。鶴橋辺りの変貌については僕もウォッチしているのですが、あれはこの商店街に、おそらく韓国のしかもニューカマーの人たちがやって来ているのでしょうか。どっちなんだろう、だからコロナ以降特に韓国行けないから、こっちに韓国つくっちゃえぐらいの感じのお店が、す

ごい増えていると思っていたのですが、それは、そういう動きが生野で起こっているわけではない。

○永松副部長

私も御幸森の辺りに住んでいるわけではないので詳しくは、ちょっとずれていたら申し訳ないのですが、見ている印象としては、もともとあの辺りは韓国籍の方が多くて、そういう方を中心とした地域の商店街だったのが、特に若い世代を中心に韓国ブームが起こったときに、その流れに乗って、新しい若い子向けのお店が増えて一気に、全体的に盛り上がりを見せたという印象を私は受けています。なので、元からもともとその地盤はあった中でさらにブームに乗ったというのがあるので、うちの近所の商店街も、生野もその勢いに乗って何かしら発展していけばいいなと思います。

○山納委員

そこまでのことはないのですか。地元のほうでは。

○永松副部長

そうですね。どうでしょう。でも本当にすごい勢いで増えているので、まだまだ期待できるのではないかと思うのですが、私は見ているだけの一住民でしかないので。

○山納委員

週末すごいですね。

○永松副部長

そうです。あそこの商店街は、あの辺りはすごいです。

○山納委員

その地元の話にいきます。ベトナムであったり、ネパールであったりの方々が多く、食材屋さんとかが増えている。

○永松副部長

そうです。アジア系の食材のお店が幾つもありまして、レストランみたいな飲食ができるところもあるんですけど、本当に食品が並んでいるお店があって、よく天王寺とか、まち中に行くと、そういう輸入食材専門のお店とかすごいはやってるじゃないですか、あんな雰囲気です。並んでるんですけど、地域の商店街なので、いや何が置いてあるかよう分からへんわということで、多分既存の住民の方はなかなか、勇気を持たないと一歩入れへんのちゃうかなと思うところです。

○山納委員

桃谷駅からも歩いてきてもありました。そう言えば食材店って、明らかに増えていると思います。伺ったのが若い方が多くてにぎやかである。でも交流のきっかけというのはなかなか見つけられないということなんです。

八尾もベトナムの人が多いらしいのですが、八尾はあるエリアがすごくベトナム化しているエリアがあるのですが、2、30年やっているベトナム料理屋さんがあって、そこは2世の子が日本語ペラペラなので、日本の大学へ行って、そこにニューカマーのベトナムの人がやってくるので、実は橋渡しがその店でできていることになっているのを見たことがあるのですが、あとは、これは京都かな、男山団

地というところで、URの団地の中でコミュニティースペースをつくっているところがあって、そことすぐ近く、男山ってベトナムの人が多いのです。1号線沿いに板金屋さんとか解体屋さんとかがあるからですけど、その人たちのコミュニティーと何か接点をもったりみたいな話を聞いたことがありました。誰かが何かうまいつなぎ手になれば、実はそう難しい問題ではないのでしょうか、日本語がもししゃべれなかったらとても難しい、ハードルの高いことなのかなと思います、その人たちって日本語はしゃべりはるのでしょうか。

○永松副部長

全然分からないのです。それが、どう話しかけたらいいかも分からないし、きっかけもないですし、本当に分からないというのが感想というか。

○山納委員

なるほど、分からないまま皆さんに投げて終わろうと思いますけど、この問題をどう考えるといいのかという、多文化共生という話があるわけですから、まさにさっきの話で古民家使ってということにつながるのかもしれないと思いました。

どうぞ、川本部長。

○川本部長

部長が言うていいか分からないですけど、いろんなものがあるのですが、要するにこの評価です。評価の基準ってどこにあるんやろう。こういうことをやりました。こういうことがありました。こうですと、そしてそれがうまくいってます。そのうまくいってる評価の基準がどこにあるのかというのが僕一番気になること。

例えば一つの例です。オンデマンドバスって僕よく使います。便利です。と僕は思ってますが、近所のお年寄りに聞いたら、それ何やねんと、あんなん走ってるけどあれどないしたらええねん、要するに使い方も分からへんし、あれ何や分からへんという人がいるんです。だから、その人たちの声ってどういうふうに反映されて、どう評価されているのか、これ一つの例です。この辺もちゃんと基準を設けて、こんだけのことがあって、こういう使い勝手がよくて、それがみんなにどれだけ浸透しててという、そこまで評価をしていかないと。便利です、便利です、本当に私は便利やと思います。よう使いますから、だけど近所のお年寄り使っていないんです。分かんないって、どうしたらええかも分からへんし、あれ何やねんという。

○山納委員

何やねんからいきはりますか。

○川本部長

はい、あれは何で走ってるねん。

○山納委員

何で走ってるねんということですね。そういうことの評価は一体どうなのかと。

○川本部長

評価の基準はどこにあると、そこをしっかりとかなないと、何でもそうですが、去年よりここはよくなりました。これは去年よりAからBになりました。例の学校の評議委員会でもそうなんです。評価でも、その基準どこにあるんだと、誰が評価してる、自分らの自己満足だけとちゃうということもあるので、そこはしっかりと

ておいたほうがいいかなと。

○山納委員

そうですね。評価の基準はどこにあるという話をいただいたわけですが、オンデマンドバスの話が面白いので広げてみたいと思います。

オンデマンドバスに乗ったことのある人って、この委員の中には1、2、3。乗ったことある便利。半分でしたか。乗ったことがない。

○船方委員

私は北鶴橋に住んでいるので、南巽とかに行く用事がないんです。なので、自転車で行けば20分ぐらいで行けるのもあって、若いからだとは思うのですが、オンデマンドバスの停留所があるところも私は知ってるんです。予約とかも電話でできるとか、アプリを使って予約もできるということは、まちづくり協議会でもお話しは確かに出るんですけども、まちづくり協議会に出ている町会長さんですとか、各種団体の方は御存じ、その周りにいらっしゃる一般の方はそこまでまだ全然、まちづくり協議会の問題もあるかもしれないんですけど、なので、北鶴橋という立場からすると、南巽とか、あっちのほうと交流することがないので、使うことがないんです。それだったら近鉄の上本町まで伸ばすとかすると、上本町の坂がすごくきついで、やっぱり年代いってきたりとかすると、あの坂を登るのはかなりつらいようなんです。私の母も自転車でよく行ってたのですが、自転車の電動のバッテリーも使えなくなって、交換もできない状態になったので、そこからかなり行動範囲が狭まってきたんです。なので、あの坂道を楽に登れるんだったら、もう少し行ったりとかいうこともできると思うのです。だから、もう少し生野、多分区の中での話になるので、どうしても北と南、東と西の交流というのがないと、なかなか浸透しないんじゃないかなと思うのです。

私、人権委員会にも入らせていただいているのですが、人権委員会のほうで研修のような形でまち歩きというのをよくするのです。私も過去2回ぐらい参加させていただいたのですが、そのときは田島神社のほうだったんです。南巽のほうだったんです。オンデマンドバス使おうと思ったら、そのときは2つに分かれていたので全然鶴橋からは行けなくて、デマンドバスを使わず、自転車でいったんです。あのときにあれば使ったのになという、そういうまち歩きとか、そういう行事があって生野区のことを勉強しようみたいな、区民レクリエーションとかでもそういう企画があれば四隅といいますか、東西南北で交流が広がって、もう少しオンデマンドバスの需要も広がっていくのではないかと思います。

○山納委員

提案までありがとうございました。オンデマンドバスイベントいいですね。だから交流する理由をつくったらいいですね。交流じゃない、乗る理由とか、乗ったことがなかったら1回乗ってもらったらいいんです。というようなことは確かにそうだなと思いました。

○船方委員

私、鶴橋の商店街のすぐそばに住んでるんです。疎開道路の本当ににぎわっているすぐそばに住んでまして、確かにいろんなお店ができて、若い方が来られてにぎ

わってはいらるんですけど、そこに入ってるお店の方と、やっぱり住民との交流は全然なくて。

昔であれば確かに韓国の方もたくさん住んでいらっしやって、昔から住んでるので町会に溶け込んでらっしやるといのがあって、交流があったんですけど、今、本当に韓国からポンッと来て店を開いて、うまくいけばずっといるし、うまくいかなければすぐ帰っちゃうというすごい入れ替わりも激しいのです。なので地元の人たちとの接点というのなかなかつくりにくい、町会費も払ってくれないという問題も聞いたりするので、地元のいろんなイベント、夏祭りとか、そういったことにもあんまり関わってこないの、そこをもう少し何とかできたら、もう少し垣根が崩れるかなと思います。

○山納委員

なるほど、商店街じゃないところにも、疎開道路辺りってお店どんどこできてきてます。そんなことなんですね。住民さんと交流がない。

○船方委員

ないです。

○山納委員

あんなに週末に人並んだら、いろいろとあるでしょう。

○宮崎委員

僕ど真ん中に住んでるから言うんやけどね。みんなね。住んでないんです。店舗の経営なんです。朝来て、朝は9時か、10時に来て、5時か、6時に店閉めたら帰るんです。だからそこの地域の交流もないし、今言いはるようにやってはやってらいてるし、はやらへんかったらじきに行きはるような感じやから、地域とのつながりというのは確かに、町会費払ってくれと言っても嫌やという人もあるし、コアタウンの商店街のごみ問題ね。あれ食べ歩きが一つの特徴になってるから、食べ歩いたらどっかで物ほらなあかんでしょ。それをほられたら誰が掃除するねんということになるからね。大阪市がしてくれるんか言うたら「せん」って言うから、そしたら誰がやるねんっていうこと、地域がやるんかということやから、地域が「何で」となるから、ごみ箱置くなということになって、商店街は、その食べはったごみは買いはったところの商店にごみを返してくれということをやって、商店の人もそれを納得して、自分のところでごみ返してくれはったらよろしいですと書いてくれてはるところもあるけど。

それとオンデマンドバスは、これからもうちょっと普及すると思う、今スマホでうまく使いこなせる若い人が利用しかけてるから、うまくいくと思うんやけど、停留所をもうちょっと増やしてもらえればやっていけると思う。ところが、今問題はオンデマンドバス5時から6時とか、朝8時とか絶対乗りません。みんな朝8時に起きて、それでオンデマンドバスで桃谷へ行くとか、通勤とか、その時間帯なんかはバスは2台しかないんやから。

そやから、あれはそれ以外の時間に使うのにはオンデマンドバスは便利やけど、そういうみんなが朝動く時間、夕方みんなが帰る時間、そんな時間にあれは使えません。たった2台や3台で、そんなもんはタクシーが2台か、3台あるのと一緒で

す。そやからほぼ使わないと思います。

僕、今日ここへ来て一番言いたかったのは、生野区は外国人が多い多文化共生です。よく言えば、その多文化共生の生野区に住みたい。外国人が多い生野区には住みたくない。そのジレンマに生野区ってあるんです。それがほんまに多文化共生の生野区で子育てしたいとなったら、生野区というは一番伸びていく。ところが、今までどおり外国人が多い生野区には住みたくないなという、その辺がそこでいつでも、この生野の未来、生野まちの未来というのは何を指しているというたら、住みたい、住み続けたいまちでしょう。住みたい、住み続けたいまち言うたら、子育てがしやすくて、仕事があってということになってきます。そうやってきたら、今言う生野のまちの未来というは、天王寺区や西区を目指しているのか、ああいうふうになったら生野区もいいなっていうのを、生野区のまちの未来というのか、どういう未来図を描いているのかなって思っ。

今、空き家問題というたけど、空き家は空いても貸さない人が多いから空き家なんですわ。商店街にしろ、どこにしろいっぱい空いてるでしょ。貸そうと思ったら5万ではなく4万にすれば借り手があって、3万にすれば借りるんですわ。そやけどそんなに安くしてまでも貸さんでもええから空き家がいっぱいあるんです。空き家問題というのは、日本の政府の税制の問題です。空き地、空き家にしてちゃんと整備したら税金かかるけど、潰れかけの空き家でも税金はかからへんいうんやから。

その建物ということになって、6分の1か住宅の場合は、そういうあれになるから、ところが空き地になったらそれがきけへんから、そやから潰したらあかんというので空き家になる。

○山納委員

ぼろぼろなのが建ってね。

○宮崎委員

そう。大きな地主に有利な税制やから、もう売らんとどうしようもない法律ばかりどんどんつくれば、もっと市場は活性化するんです。売らなくてもええようにしてるから、つまりああいうふうにして何か建てといて借金をつくっといたら、借金と相殺するから売らんでもええような、税制の抜け穴になってるから、そやから空き家が増えるのであって、空き家がやり方、政治のやり方では空き家は減ると思う、これ空き家は何も生野区だけの問題ではなくて、東京もあれば、全国的な都市部の、つまり人口が減ってるんやから空き家は増えるわね。みんな死んでいってるのに生まれる人間少なくなったら空き家が増えるのは当たり前やからやと思うけどね。

それとさっき、今言っはったけど、御幸森小学校の跡地の問題出てきて、御幸森小学校そう簡単にはやっぱりいきません。難しい。ものすごい難しいです。何でかいうたら学校跡地で事業しようと思ったら、初期投資が要るんです。お金がものすごい金額になるから、そういう問題、初期投資せんと人が寄るようなことはできへんのちゃうかなというあれがあるから、まだ御幸森はコリアタウン抱えてるから何とかなると思うけど、ほかは市が初期投資してくれるんやったら、学校の跡地と

して、それをしてくれないとなったらそこへ人を寄せて、するという事はなかなか難しいと思います。今言ってるように、この間学校の人に話したら、冷房、暖房は全部個室にというか、各教室に入れなあかんメーターを、それが何千万かかる。

○山納委員

メーターだけですね。

○宮崎委員

何でや言うたら、学校はガスで冷房してるらしい、ガスのメーターは一つになってる、学校として月に30万円ですと、ところが、今度誰かに貸すとなったら、あんたのところは1万円です。あんたのところは3万円ですとせなあかんでしょ。その工事がそんな数百万でできる工事やないんやて、ガスで、電気ですべてやってくれてたら簡単やねんけど、学校はガスで空調してたもんやから、ガスで一括して電気にしてやったでしょ。あれを個々に分けてメーターするとなったらものすごいお金が要るんやて。そやから、そういう問題とか、学校の運動場の土を上がらんように芝生化するという問題とか、大きな問題をいっぱい抱えてるから、どう初期投資して、どうやってくれるかなってこっちは見るだけやけど、そう簡単なもんじゃないなと思って見せてもうてるんやけど。

○山納委員

なるほど、宮崎さん大分盛りだくさんです。しかも解像度が高いので、ちょっとだけ振り返りてみたいと思います。宮崎さんがおっしゃったお話の中に、疎開道路とかに来ているニューカマーのお店の人たちの問題、ごみの問題というものがある。だから、人が来てにぎわっているような、未来につながるように見えるけども、いろいろと地元には解決しないといけない問題があるということを指摘いただいたと思います。

オンデマンドバスのご事も指摘いただきました。これから若い人がスマホ何か使って使いこなすんじゃないか。一方で、停留所を増やしたらとか、使わない時間帯ってありますよという話をいただきました。

この外国人が多いということと、多文化共生ということは本当にうまく両立するのだろうか、外国人が多くてコミュニケーションが取れなかったら、そこ住みたくないよという人がいるんだとすると、先ほどの天王寺区や西区のような、住みたい、住み続けたいまちにならんかもしれんという問題も指摘していただいたと思います。

空き家の固定資産税の税制の問題をそのままにして空き家を活用すると、更地にもできないということはどうすればいいのか。

そして最後の学校利活用の問題って、御幸森は順調なスタートを切ったかもしれないけれど、今後、設備投資、最初にかかる初期投資のことを考えると、問題って事業者が現れるのかってという話につながるのか、事業者が利益が出ないのではないかっていうことを、よくよく見ていかんとあかんという、それぐらいのお話をいただいたと思います。

次ですね。はい。

○岸村委員

私は、今日こうしてこの部会に出させていただくのは初めてなので、あまり具体

的なことでよく分かっていないのですが、取りあえず、今オンデマンドバスという話が出たので、このちょうど発足時期だったかお呼びいただいて、乗らせていただきました。そのときに感想ということで聞かれて、やっぱりすぐに思ったのは、非常に賢くよくできたというか、そこに優等生が走ってるけれども、やんちゃな要素って本当はないなと思ったのです。賢いけれども、面白くないというか、とってもクールなんだけど、ホットな要素がないというか、そういうのは結局このバスのプロジェクトが始まる時に、どんなふうになったらいいんだろうという、未来部会というのはそういうことだと、砕けて言うと、こんなふうになったらいいなって思うことだと思うのです。そのためにも、それを考えていく上で、どういうその人たちに参加をいただいてというプロジェクトの構成です。その時点で既にその部分が欠けてたんじゃないかと、例えば今、ワンちゃんであったり、お人形のようにであったり、ロボットを作るときに初めから、いわゆるテクノロジーを進めることはないと思うのです。まず、こうなったらいいなという一つのビジョンというか、目的があって、そのためにしっかりと新しい技術、そういういろんなデータを生かしていくことになっていくかと思うのですが。

考えてみると、やっぱり今の時代というのは、単にITの積み重ねって一方で、そこからどのような人に近づけていくかというか、その部分がとても大切だと思うのです。私、初めて乗らせてもらったのは、ここが停留所なんですよという表示を貼ってあるのです。あそこは確か大阪、会社のあれです。ブルーのラインが入ってるというメトロですか。

そうしたらある程度、もちろんデザイン的な要素の上でも統一というのはあるのですが、でも肝心の、つまり地域のこどもからお年寄りに至るまでの、そういう人たちに対する利便性というか、そういうものに対する配慮が本当はないなと思ったのです。要するに分かりにくい、今の時代でしたら停留所一つだって、例えばもっと形が、もっと素材が、もっと色が、もっと音がというか、動作をする。とにかくそれは単に視認性を高めるというか、分からせるための手法というよりは、全体の中でこれは新しい、バスという単なる交通の利便性だけじゃなくて、一つの地域と、それから大きい既存の交通体系につないでいく、新しい地域の 카테고리をつくっていくみたいな、そういう大きい、楽しいビジョンがあったらいいなと思うのです。

ですから、バスだってきれいに、スマートになってきているのですが、例えばお年寄りからこどもまで動物園は大好きなんです。いろんな動物がいてという、何でもいいんですけど、そのバスがすごく楽しく、ごろごろくまちゃんでも何でもいいんですけど、そうするとその姿が既にそういうくまちゃんになってて、例えば最初にまず何より分母を増やしていくという意味で、電話って大切だと思うのです。そういう中でどんどん利便性に発展、つないでいくという意味で、例えば最初に電話するときには、5、6、5、6になっているとかね。そういうことも含めて人間を幸せにするための発想みたいなものをどう構成していくかというか、その部分が、だからテクノロジーは100までできました。次の100に至るそのビジョンが全然ないというか。

○川本部会長

岸村さんね。オンデマンドバスってあります。あれの停留所はどこにあるかってものすごい小さいから分からない。

○岸村委員

もちろんそういうことも含めてです。

○川本部会長

そういうことも含めて、やっぱりもっとみんなに分かるようにしないと。

○岸村委員

だから今のテクノロジーでいうといま申し上げた。例えば色だってね。真っ黄色で、それで黄色がボンッとあるとそれで分かる。一々言葉で説明しなくても自動的に分かる。その黄色が例えば近づくと点滅するとか、あるいは音が鳴るとか、それが立体で何か動いているとか、とにかく何でもいいんです。バスそのものが例えば真っ黄色で、何か音が今申し上げたように、何か一つの共通した物語の中のキャラクターとして、だから今なんてすごくもったいないと思うのです。バスの中がきれいなものが、とにかくモダンなものが走ってるなど、でも、あれって考えてみると動く看板みたいなものです。だからそこに一つの物語というのですか。一つの発信性というのですか、震源地をこしらえていくみたいな、話題をつくっていくみたいな、すごい楽しいというか、だから今賢いけど楽しくはないんです。その楽しさの要素をどうこしらえていくのかというものが、今の時代そこに来てると思うのです。

さっきも申し上げた。そのロボットこしらえるのに、それに近づけるにはどうテクノロジーを生かしていくか、その順番で、だから既にその形の上のことが当然頭にないと、説明ではなくて自動的に、知らない方、体の悪い方でもそれが分かってしまうことは可能だと思うのです。そもそもという意味で、何か最初の出発点というか、それが体制できてないんじゃないかと思うのです。

私もいろいろ話してきて関連する。自分で小さい町会ですけれど、その町会長、突然やらせていただくようになって、やっぱり制度疲労のようなものをとても感じるのです。今も成り手が全然なくて、私もPTAやらせていただいたときから、同じような人たちが永遠と年をとってやっていると、仕方なしにそういう役割をやっている。何とかせいせいしたみたいなことになってくると思うのですが、でも、今は自分たちが何かをやっていくというよりは、もっと人の資源というか、今この、話がばらばらになりますけど、コロナって結局メッセージはもっと離れなさいということだと思うのです。もちろん人間というのは離れて生きるわけにはいきませんが、一遍離れて自分自身に戻りなさいって、自分自身に自分がいて、自分の家族がいて、自分のお隣がいて、自分の地域があって、要するに自分の足元をもう一遍ちゃんと実感してみるというか、そうすると見えてくるものがいっぱいあるのです。

私は今、地域でたまたま町会長になってからすぐに、ある土地の寄贈をいただいて、それを地域の公園化するときいろんな大変なことが、課題が生まれてきたのですが、とにかくそれ、戦後のすぐにそこで小さな町工場を始めたご夫婦が、今東大阪では大きな企業になっておられて、実はその頃に、皆さん方にいっぱい助け

ていただいたと、うれしいと言って、そのご恩返しとって、その土地を提供していただいたのです。その頃ってというのはこんなふうに行政がいろんなビジネスが、言わなくとも既に一人一人の暮らしの中に、一人一人の意識の中に、習慣の中に、暮らしの中に助け合う姿が既にあったということです。それがものすごい大きな力を持って、それがその人を助けて、その人の気持ちを育てたというか、今はそのときに80歳の会長を務めていただいた方が、やっぱりそれを返していきたくて、私はものすごい大きな感銘を受けて、お礼にそのときに聞かせていただいた話ですけど、結局のところ人を助けるといって、助けられる喜びと、助けてあげることの喜びです。それを取り戻していけば、そんなにいろんな制度とか、ビジネスに頼っていかなくてもお年寄り、お年寄りの本当にすごい経験してきた資源というか、生きてきた歴史そのものが普遍性ですから、話が出てくるとすごく面白いし、その人たちが中心になってやってくるんです。そこから、実は先ほどの空き家の話も生まれてきて、ある方が来られて、実はうちこんな家があって困りますなんて、ぼろぼろでどうしようもないからって、ついては、そういうことだったら一遍みんな考えてみましようということになって、そこでその建物を壊して、そこを農地に変えて、みんなでそれを、地域の育てる畑になったのです。それ私たちの町会桃二というんですけど、桃二農園をこしらえて、その話を聞いた方がやっぱりこれはすばらしい、いい話だということで土地の改良から何かみんなしてくれました。ですから、その場でそういう話が生まれて、そしていろんな力が集まって、それは毎月、実は青空カフェという名前で毎月みんな寄るんです。

○山納委員

それは畑ですか。

○岸村委員

畑じゃなくて別の広場のほうです。さっき申し上げた。そこでみんな集まってきていろんなことしゃべる、お年寄りからこどもに至るまで、そうすると、そこからいろんなアイデアが生まれてきて、考えてみると、私はそれを、普段は自分たちの、いわゆる地域の会議のことを例会、月例会、あるいは常会という言い方、私はそれは新しいもの、外の常会という言い方してる。外の常会、それは既に。

○山納委員

外の常会、青空カフェが。

○岸村委員

暮らしの中にある人たちが主役なんです一人一人が、そこから出てくる話なんですみんな、そういう人たちがいっぱい、いろんなものを持って、いろいろできる人がいて、持っている人がいて。

そういうことがあって、結局もう一つそれを言い方変えてるんですが、もう行事はやめると。行事はやめて、みんなで風景をつくるということ言ってる。風景というのは、結局みんなが普通の暮らしの中にあるものです。だから、そこで生活している人たち一人一人が主役で、それは結局、今、区のほうで今度続けていただけという居場所、それから持ち場ということです。ただ居場所と持ち場を提供しただけではなくて、それをどうミックスさせて発展させていくかという、その視点が

ほしいなど、その辺が今日の提案ということになるかと思えますけど。

○山納委員

ありがとうございます。オンデマンドバスの話から始まりましたが、オンデマンドバスにはきっとストーリーというものが必要で、それなしのテクノロジーを持ち込んだってうまくいかないよという示唆的なお話からいただきました。デザイナーさんの話を聞いているのかなって思うぐらいストーリーが、デザイナーの人ってこういうふうにものを考えて、実際に人がそうしたいと思っているところから組み立ていく、テクノロジーなりが働くかもしれないけれど、というすごく大事な示唆をいただいたと思っています。

○岸村委員

物語化みたいなものです。

○山納委員

一旦終わりますね。もう一つが公園、土地をもらって公園化ということ、だから本当に民パブリック、市民の中でそういうことが起こっているし、青空カフェみたいな場所でしゃべるといことが、外の協会みたいな、実はすごくパブリックなものをつくるための土壌になっているというお話をいただいたのだと思っています。ありがとうございます。

まだ、お話をいただいている古本委員に、ぜひお話をいただけたら助かります。

○古本委員

いろいろお話聞いてまして、今オンデマンドバス、僕は実際には乗ったことないもので、自転車はどうしても便利ええもんやから家の前から乗れるから、電話かけんでも、これ以上便利なもんないなと思って、いつも自転車で移動しとるもんやから、自分としては利用したことないんやけど、どうしても空き地の問題が自分もそうやけど、自分の娘3人おるんですけど、3人ともみんな今は嫁に行って、自分で家買ってるもんやから、自分が年いって、いつかお父さんとお母さんおらんようになったときに、結局空き地になるやろなと思う。帰ってけへんもんね。皆出て行って自分らで家買ってるもんやから、空き地だけはこれどないしようもない。政府のほうで買い取るとか、大阪市が買い取るとか何かせんかったら、何十年も住むと上はゼロになります。結局土地だけやからその土地の価値より潰す費用のほうが大きいもんやから、結局ほったらかしになると思うわ。もし土地の値打ち、売った金額と、例えば潰す金額が、土地売ったほうが得やねんというんやったら、みんな手放してそういう方法取るとするんやけど、そやから空き家はどうしても増えてしまうんかなと思うのですけど。

外国人の多いまちという、それは生野区はどうしても一番多いんちゃうかなと思うぐらい、これだけはどうしようもないぐらい、どうしても隔たりというか、そういうんがあって、言葉の隔たりというか、どうしてもやっぱ敬遠してしまうという、僕らもそうやけどそこへ入っていけないというか、そういう問題が起こってるんちゃうかなと思ったりするし、たまたま僕、巽のほうに住んでるもんやから小学校6年生の子聞いたら3クラスあるとか。下の子は2クラスある。巽小学校はそういうところなので、御幸森小学校かな、なくなったというか、そういう合併とか

いう話あるじゃないですか、自分の中ではピンとけえへんけど、少子化というか、そういったことがあって、どこもこどもさんが少ないから今、そうやからどうしてもそれを食い止めることができへんのかなと思ったりしますけどね。

○山納委員

永松委員が手を挙げていて、永松委員にしゃべっていただいてもいいですか。

○永松副部長

今、少子化の話がありましたけども、うちこどもが2人おりまして、先ほど3月で閉校になった生野小学校の校下に住んでると言いましたけども、こども2人いますので生野小学校閉校になりまして、新しい義務教育学校生野未来学園というところに今年の春から通っています。義務教育学校というのは大阪市内で初でしたよね確か、市でしたか、府でしたか、確か初と聞いてます。9年生の学校だそうで、これ意外と通っている保護者もよく分かってなくて、中高一貫校と義務教育学校は何が違うんだというのを、私は以前から、地域の広報をさせてもらっているのですが、それを聞かれるたびに一住民でありながら一々説明をして歩いているのですが、新しい学校始まってみてとても面白いんです。今まで小さい学校だったので1クラスしかなくて、しかも学校なくなるんや、どうするんやと言っていたのが、9学年もあるでっかい学校になって敷地もめちゃくちゃ広いんです。中学校と小学校が一つになりましたので、やっぱり新しい学校になったことで戸惑いもありますし、先生方もすごい増えて大変そうな中でも、大きい学校の面白さというのはすごく感じるんです。

先ほどの住みたいまちの話もありましたけども、地域の中でも少子化高齢化のことはすごく言われていて、若い世代に住んでほしいというのがあるから、その中で、ぜひこの生野を文教地区にして学力を上げてという話がよく出るんです。ただ、私自身、こどもが実は障がい児でもあるのですが、生野未来学園でも支援級に在籍していて、学校のほうともお話している中で、生野未来学園の中で支援級在籍児が、ほかの学校の平均に比べて大分多いそうなんです。これ生野の特性だと思うのですが、私自身が生野区内の障がい児・者家族会、長く活動している会なのですが、役員もさせてもらっているのですが、生野区は障がいのある方がとてもたくさん住まれている、以前も全体の部会するときにも、全体会するときにお話させていただきましたけども、インクルーシブなまちとしてぜひ生野を売り込んでいただきたいというお話をさせてもらいましたけども、多文化の部分もそうですし、また土壌の中で、学校の中でインクルーシブ教育というのが今全国的に呼ばれてますけど、生野区内の学校、各それぞれ取組ずっと頑張ってきて、学校なくなりましたが新しい未来学園でも、それを継いで先生方が頑張っていこうとしているのをすごく感じるんです。それは保護者にとってとても魅力的なので、実際に障がいのあるお子さんたちがたくさん通っていて、地域の学校にそれぞれ伸び伸び過ごしているという、それってすごい魅力だし、アピールポイントだと思うのです。学力すごいよということも、もちろん保護者にとって響く部分あるかもしれないですけど、それ以外の部分というの、こどもにいい環境をと望む親にとって、とてもすばらしいものだと思うので、生野区がアピールしていく、若い世代にぜひ住んでほしいまちとして

というのは、ここじゃないかなというのをこどもをもつ保護者としてすごく感じるところやし、生野区のこのいつもプロモーションの計画見て思うのですが、その姿勢がいつもないんですよ。

○山納委員

そこを言えばいいのに。

○永松副部長

そうなんです。そこ推してほしいというのが、私自身が障がい者の家族会をしますので余計に思うところですけども、確かに障がいのある方、オープンにしたい方、そうじゃない方、たくさんいますのでいろんな考え方が、難しいのは分かるのですが、ぜひ新しい学校もできましたし、ぜひそこうまく使ってというか、アピールの中に混ぜ込んでいただけたらうれしいなというのを思います。

障がい関係のことは、いつもそのプロモーションの中に入らないのでぜひというのを言いたかったのです。なので障がい関係のことで言えば、もう一つ言わせていただくと、さっき廣川委員がおっしゃったようにものづくり百景、工業のまちでもありますので、まちづくり、うちもそうですけども、非営利でいろんな活動をしている団体、生野区すごくたくさんあります。持続可能な事業の認定というのもまちづくり課でしているというの伺いまして、うちの会も認定いただいたのですが、そうやって活動しているところたくさんあるので、そことそういう工業の、そういうところをつないでいただいて、コラボで何かというのをぜひ間を取り持っていて、声かけさせてもらったら、それぞれの立場でいろんなものつくっていきけるし。このものづくり百景すごい面白いんです。私、拝見させてもらったのですが、さらにもう一つ上に進む、何か面白いことができるんじゃないかなと思います。多分声かけたらやりたいですという人すごくたくさん出てくると思うので、ぜひそこは行政の方に間入っていただけると、とても楽しんじゃないかなと検討をお願いしたいところです。

○山納委員

ありがとうございます。この学校、新しい学校は面白いって話、インクルーシブなまちというのは絶対売りになるという話などいただきましたが。

古本さん、まだしゃべり足りないんじゃないですか。

○古本委員

あと私は娘3人と、長女は西区のほうに住んどるから、西区と生野区と比較すると何か西区のほうは進んでるというか、そんな感じが何となくね。そんな何が進んでるねんということ、基準がね。ということになるやろうけど、何かそんな感じがするね。

○山納委員

先に手が挙がった。廣川さん。

○廣川委員

楽しくなってきたのでいろいろと、こんないいですね。こんな感じで、皆さんで議論といったところで、話聞いてて思ったのが、オンデマンドバスは公共の、交通のところなので区の内容だと思うのですが、課題のところ、ものづくり伝統

を紡ぐといったところが途絶えてしまうと、空き家多いというのって課題と捉えるか、資源と捉えるかって人の見方だと思うのです。もっとアートの的に見たときに空き家って資源なんです。ここの資源をどういうように民間に落とし込むかといったところやと思うのです。さっき出てたところで、ものづくり、空き家、交通、まちの資源、魅力の発信ってあったんですけど、これまちの発信、魅力の発信というのをもっと区から民間に、上手に橋渡しする仕組みが必要だと思うのです。

自分は二十歳、大学るときから東北のほうでまちおこしやってたんですけど、勝手にまちのブランディングつくって若者が羽ばたくまちやと、津波で流されたまちのところで拠点つくってやってたんですけど、そういう動きたい若い世代とかもおるんで、どういうようにその人を、生野に巻き込んでプロット落とすかといったところで、行政でツイッター部門みたいな感じで、この子ツイッターで1,000人とか、2,000人ぐらいのフォロワーおる子に生野区で何かやってみませんかと言ったら、区とタイアップできるって結構魅力的な内容なので、そこに対して空き家があるといったところで、多くの大人たちでサポートしながら、生野区のまちの人たちでサポートしながらという形ができれば楽しいのかなと、あと評価の方法、川本委員言ってたんですけど、何が達成で、何が未達成なのかが分からない、その対象とかもないし、それが達成なのかって自己満で終わるんじゃないなくて、そこまでいくといったところの目標値が不明瞭なのかなと、自分、まちおこしをずっと、どっぷりとやっているタイミングもあれば、今は建築工務店のほうをやっているんですけど、総じていろんなまち呼ばれたりとか見てきた中で言えるのは、活気があるまち、これから行くぞというまちのお母さん元気です。お母さんが行ったろかみたいな、私たちがこどもを守るぜみたいな感じの、あと子育てしやすいまちは間違いなく生き残っていくかなと、まちとして淘汰されていくような時代にも入ってるのかなという感じなので、生野がどこでブランディング、生野区といったところを押し出すのが、多文化多国籍の内容なのかなと思うのですが、多世代も入ったら面白いんじゃないかな。

○川本部長

いいですか。実はいろんな評価のことも言いました。一番大事のはつなぐというか、つなぐって、例えば私のところ町会があります。ただいっぱい資源があるんです。近所に高校がある、同じ地域に女子校がある、そことどうつないでいくのか、祭りのときにある高校の、昔はお母ちゃん元気やったから女子みこし、お母ちゃん頑張ってくれてたけどだんだんあかんようになって、その高校の女の子に頼む、つなぐ、それから女子校があります。地域でこどもたち夏休みの宿題とか、そういうものをその高校の高校生が教えにきてくれる会館に、それを夏休みの初めと中と終わりにやると、要するにいろんな資源をつないでいく役割というのはやっぱり大事なのかなって、つなごう駄目やなという気がします。

○山納委員

ありがとうございます。

○岸村委員

私、先ほど資源の話でいうと、それこそお年寄りが資源なんだなと、とっても見

つけ出したことだったのです。青空カフェの中で、それとやはり、今よく話題になる学校の統廃合も考えてみると、その学校そのものは一遍元に戻して、その一つのロケーションというか、その規模でいうと、もしこれだけのすばらしい資源を獲得するって難しいと思うのです。これはあくまで、本当になくなっていくことを考えていくと寂しいことではあるのですが、非常に可能性に満ちた資源だという考え方もできると思うのです。先ほど生野の多国籍というか、そのことで思い出したことなんですが、この2年間ほどコロナの関係で、いわゆる成人式というのができなくなったという、私どもの町会でもそうなんですけど、そのときにどなたに言ったか忘れましたが、区の担当の方、また無いんですかということになったときに、私普段から町会の中でそういうアジアの子ですけども、若い子たちとよく話をしたりするんです。そういう子たちにせっかく我々はこういう居場所と持ち場と言っているのですから、その人たちにこういう一つの居場所、持ち場ということ意識してもらうのに成人式の場合、こういう機会に言葉のタイムカプセルをつくってあげられないかなという。

それは何かというと、その子たちもやはり二十歳という時期をこの異国、日本という土地で迎えているわけです。ちょっと話また大きくなりますけど、居場所、持ち場というのは結局その頭にそれぞれの居場所、それぞれ持ち場って、それぞれがついてくると思う。それぞれというのは結局多様性のことだと思うのです。多様性というのは、その取りようによると、どうしても煩わしいと思う場合と、面白いと思えるかということだと思うのです。つまり、それぞれみんな違う凹凸があって形も違う、何かにつけて違うけれども、それはあつれきを生む場合もあるし、それが彩りになる場合もあると思うのです。ただ、よく最近共存って言いますが、何も無い、お互いに害を与えない、そういう共存って僕はあり得ないと思うんです。ともにあることがどれだけ面白いのか、違っていることがどれだけ楽しいかということを実感できるような、そういう施策を公的な役所なんかではとってほしいなとすごく思うのです。

先ほど申し上げた、そういう一つの仕掛けというのですか、そういう人たちが自分たちの違い、それぞれの、例えば生野という、「広報いくの」の新聞ありますけれど、あの字がそれぞれの国の言葉で、見たこともないような面白い字で毎回書かれていると、つまり決まったら繰り返していくようなことが、どうしても役所のルーティンになっていくと思うのですが、みんな違うことの面白さをどんどん発見してく装置としても、メディアの魅力を作り上げていくという、要するに、それぞれの面白さを生かしていくようないろんな企画というのか、その媒体の使い方というか、その発想が今はすごく求められているんじゃないかと思うのです。そういうことです。

○山納委員

ありがとうございます。もういい時間になってきていますが、ようしゃべりますね、皆さん。この中でしゃべり負けたわという人で、しゃべりたいという人おられますか。大丈夫ですか。またやりましょうね。こんなの。

せっかくなので、オブザーバーとしてお越しいただいている方にもお話いただけ

たらと思っておりますが、お願いしてよろしいでしょうか。

○大藤委員

こどもの未来部会から出席させていただいた大藤です。よろしくお願いします。

昨日もこどもの未来部会が終わってから、区役所の外で約3、40分長々とオフレコ会みたいな形で、会議の延長があったのですが、そういうところで話すということが一番本音の部分が出ていいのかなと、そういうのも必要なやろうなど、雑談の中に何か答えやったり、何かアイデアがあったりとかすると思うので、できれば皆さんと一緒にそういう会ができたならなと私は思っております。

こどもの未来部会で昨日私が言わせてもらったのは、将来的には子どもたちが生活できるようになってもらわないと困りますので、できることなら、高校までは卒業して、高卒以上という就職の条件欄のところに合致するような子どもたちになっていただきたいという希望を持っております。そこがつながることで、その子どもたちが生野区にまた住んでくれてつながっていききたい、それを夢としてこどもの未来部会をさせていただいておりますので、また何かございましたら、ご意見、ご感想とかありましたら、ぜひこどもの未来部会にも来ていただいて話していただくと大変うれしいです。よろしくお願いします。ありがとうございました。

○山納委員

ありがとうございました。

○森本委員

失礼させていただきます。私も同じくこどもの未来部会の森本と申します。

今日は皆さんのお話を楽しく聞かせていただきました。課題が資源に変わっていくという今日の流れ非常に面白いなと思って聞かせていただきました。皆さん様々な課題と思いと考え、それが自分で関わって変わっていける部分と、自分たちだけでは変わっていかない部分という当たり、例えば税制の問題であるとか、空き家はやっぱり大阪市が買い取ってもらわな難しいかなとか、自分たち民のところではどうしようもない課題という部分もあったのかなと思っています。

皆さんのお話を今日お伺いしながら、私の持論なんですけど、ピンチはチャンス、課題は祝福という、私はずっと自分の思いがあるのですが、本当に課題というのはよりよく変わるための可能性を秘めた題材なんだというそんな気がしました。そういう意味では公民館連携で取り組むモデル区に、ぜひ生野区はなっていたらなと思うことと、もう一つ私は昨日、こどもの未来部会でやっぱり学校の再編のことで、子どもたちの通学路の安全という辺りが非常に課題になっていたのですが、そんな中で当事者の子どもたちの思いも聞いてみようということも出てました。

先ほどおっしゃってた生野未来学園さんです。私もお伺いをさせてもらったら9年間で、今年は5年まででワンクール、5年で、その後2年でワンクール、その後2年でワンクールという、この3つで今年度はやるんだという新しい取組をなさって、すごいなって、これのために先生たちがみんな毎日会議してる。すごい活性化してるんやなというのは感じました。

多文化やとか、障がいのある子のインクルーシブ、そうやんええこといっぱいあるやんという、グッドの部分です。いい部分の部分をアピールする必要もあるなと

聞かせていただきました。

あと子育てしやすいまち、子育て支援センターや集いの広場に来ているママたちに聞くと、生野区は子育てしやすいまちだと言ってます。そのところもプラスで、また皆さんと一緒にまちの未来を考えていけばいいのかなと思いました。長くしゃべりましたが今日はよかったです。どうもありがとうございました。

○山納委員

ありがとうございました。予定の時間をちょっとオーバーしたような気がしますけれども、川本部会長にお返ししたいと思います。

○川本部会長

全て行政、役所にお任せするというのではなしに、依存するというのではなしに、自分たちの手で自分たちをつないでいくという、これは一つ大事なことで、そしてこれは行政でないとできないことというのは僕はあると思う、そこは行政と、だから私たち自身が行政とどうつないでいくのか、どんな役割をそれぞれがやるのか、そこをきっちりしながら、自分たちでやるところは自分たちでやろうよ、つなごうよ、行政には限界があると思います。その限界を超えるのは私たちの力やと思いますので、そういうことでお互いがつなぎ合いをする社会をつくっていく、それが区政会議の一番の基本だなと思います。副部会長、いかがですか。

○永松副部会長

自分のしゃべりたいことを十分しゃべったので満足して、最後ぼおっとしてしまっただけですが、楽しい時間をありがとうございました。

○川本部会長

コーディネーターをやっていただきました山納委員、本当にありがとうございました。

事務局から連絡事項があるようでございますので、一つ事務局よろしくお願いたします。

○杉本区政推進担当課長

委員の方はじめ、皆様お疲れさまでございました。

本日いただいたご意見につきましては、次の全体会で部会としてご報告いただくことで、他の部会の委員の皆様にも共有いただくことにさせていただきます。報告内容につきましては、ひとまず事務局で整理させていただきますので、部会長、そして本日進行を務めていただいた山納委員と調整させていただきますので、よろしくお願いたします。

事務局報告は以上となります。

○川本部会長

それでは、本日の会議を踏まえまして、区長さんから一言。

○筋原区長

皆様、本当に熱心なご議論ありがとうございました。ちょっとだけしゃべっていいですか。すみません。

私はもともと大正区というところで区長をしておりました。24区で人口が一番少ないという、一番衰退したまちです。そこで公民、地域連携というのを、まちづく

りの柱として民間の方と一緒にいろんなことをやってまいりました。本当に大正区の場合は人が流出し、お金も流出している。これが僕の考えるまちの衰退しているという状態なんです。やっぱり人とお金がまちにちゃんと循環をし、そしてそのお金でもって教育や地域福祉や、そういうことをきちんとやっていくことが必要だと思っていて、大正区も、生野区も、実はお金を回すということでは産業構造がすごく似ています。やっぱりものづくりと製造業と、それと卸売、小売業、ものづくりとお店、それで大体まちの売上の8割ぐらいです。生野区もです。それでどう活性化するかというのは、大正区、港区でやってましたのは、今でも操業させておられるものづくりのまち効果というのは、実は非常に高い技術力をお持ちなんです。でも、下請、孫請けの時代が長かったので、新しい製品を生み出すアイデアがなかなか出ないというお悩みをお持ちです。一方で、ベンチャーや大学の研究者というのはアイデアはあるのですが形にできない、この2つを一緒にして新製品を作り出すという、そういう拠点を大正区、港区でつくってやってきました。もう一つはものづくりは東京と比べると、大阪の場合は一つ一つのロットが小さいので、量産としてなかなか組みにくいのがあって、それはネットワークを組むことで解決して力が出ます。

実は、生野区というのは24区で一番事業所数が多い、東の一大拠点です。ここと東成区が、ベイエリアのほうは大正、港、西淀川、西区辺りは、相当なものづくりのネットワークつながってきていますので、私はぜひここと、そして生野区、東成をものづくりのネットワーク、今日もお昼にです。そういうまち工場、企業の方、そういうお話をしていたのですが、ぜひネットワークをつくって、そしてそういう今、全国の工業専門学校、高専と組んで新しいまちづくりのアイデアをもらうというのも実はやっておりまして、そのアイデアをもらって、まちをよくするアイデアももらって、それも事業化するという、それも町工場と一緒にやっていきたいと思っています。

商店ということでは、やっぱり新しい、探してでも行きたくなるような魅力的なお店や場所がほしい、これは空き家のリノベーションです。空き家のリノベーションも相当力を入れてやってきました。大正区的时候は、空き家はもちろんオーナーさんというのは、ご高齢で相続が気になってあんまり知らん人に貸したくないなということもあり、また、テナントの方は経験が少ないので、収支計画書けないとか、銀行のお金の借り方が分からないとか、いろいろなこと、分からないことがあるので、それを一括して解決できる専門家チームをつくってました。生野区へ来ますと、まず自然発生的に廣川さんもそうなんですけど、空き家のリノベーションがどんどん進んできています。だから、それができる、力のある建築家や専門家の方々既に相当おられますので、だからこれもネットワークでつないで、そしていろんな、魅力的なお店をつくるのがこれからできると思っています。

コリアンタウンですけども、今、年間200万人も来られてて、京セラドームと同じぐらい来られてる。これを素通りさせてはいけないと思っていて、京セラドームよりももっと強いんです。京セラドームは試合やイベントのときだけの200万人ですけど、コリアンタウンは日常200万人で、しかも夕方まで終わるので、そのあ

と夜です。まちに受け止めることができるわけです。だから、それを空き家のリノベーションで、そして今60か国の人がこのまちにお住まいですので、その60か国のお店、まさに生野銀座、本通りの商店街です。今ベトナムの方やお店増えております。そういうふう新しい、いろんな国のお店やそういうのをどんどん増やして行って、また面白い、魅力的な場所を増やしていけばそういう受け皿をつかってしっかり受け止める。

万博も、世界中から人もお金も新技術も来ます。万博はパビリオンがあって、これは世界のバーチャルですけども、生野区に来たらリアルの楽しい60か国の生活がありますので、それで来ていただいて受け止める。

そういうことのいろいろなネット、まさに今つなぐというキーワードをおっしゃっていただきましたけども、そのネットワークです。ネットワークづくりを、これから万博に向けて人とお金、技術の流れを受け止めるということと、それとやっぱり生野区の魅力というのは、大正区から来て本当に感じたんですけど、まず、地域の活動をしてる方の力があるということと、それと先ほどおっしゃられた障がいをお持ちの方であったり、いろんな社会の課題をお持ちの方に寄り添う、支えるという、NPOであるとか、それがすごく多いです。50以上ありますので、大正区なんかは2つぐらいしかなかったのです。それはすごいまちの力がこのまちにあって、これはすごい魅力で、僕は今まだ住んで1か月ですけど、すごく感じるのはやっぱりこのまちの優しさと、それと人の面白さです。楽しさ、これをすごく感じます。僕これが生野区の魅力じゃないかなと、住みたくなることの、住みたいまちになる魅力そのものじゃないかと思っていますので、やっぱり面白い、住んで面白い、住んで優しさを感じられ、そして面白いまちにというのがすごく大事で、オンデマンドバスもいろんな意見をいただいて、これも実はメトロも、ウィラーも本当は今まだオンデマンド運行で大変な状況ですけど、あれは本当は公共交通ですけど、本当は使うほうが面白い使い方を考えて、使い倒すというのがオンデマンド交通なんです。例えばみんなでお花見行こうかというときに、オンデマンド交通を使うとか、あるいは塾の送り帰りに事業者さんがあのバスを使うとか、そういうアイデアを出して使い倒すというのが、本当は引き継ぎたいところなんです。メトロも、ウィラーも、だから今日お話を聞きまして、ぜひオンデマンドバスイベント、こういうオンデマンドバスこう使い方したら面白いん違うかということ、ぜひ地域のほうからもアイデアいただいて、それをメトロに持ちかけて実際にやってみたら面白いんじゃないかと思っています。

それから今いろいろな、様々なネットワークづくりです。これは万博に向けて今日のお話いただいたので、区としての、区を挙げての一大プロジェクトとして進めていったら、非常に万博に向けて面白いことになるんじゃないかと思っていますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

○川本部長

どうも今日はありがとうございました。